

第10回「富山市まち・ひと・しごと総合戦略会議」意見一覧

富山市まち・ひと・しごと総合戦略会議委員：(五十音順、敬称略)

石田 康博	連合富山・富山地域協議会 議長
石動 瑞代	富山短期大学 幼児教育学科 教授
上野 等	北陸電力(株) 執行役員 富山支店長
大島 精三	富山公共職業安定所 所長
品川 祐一郎	富山商工会議所 副会頭
長尾 治明	富山国際大学 現代社会学部 名誉教授
中村 和之	富山大学 副学長
橋本 勝広	(社福)富山市社会福祉協議会 専務理事
星川 圭介	富山県立大学 工学部 環境・社会基盤工学科 教授
松田 智生	(株)三菱総合研究所 経営イノベーション本部 主席研究員
宮本 一成	全日本空輸(株)富山支店 支店長
森田 由樹子	(一社)富山県旅行業協会 理事
山野 昌道	(株)チューリップテレビ 代表取締役社長
山本 覚	(株)日本政策投資銀行富山事務所 所長
綿谷 雅代	富山商工会議所女性会 会長

議事1 第2期富山市まち・ひと・しごと総合戦略の改訂(案)について

ご意見

【割山森林公園天湖森の再整備(追記)について】

- ・割山森林公園「天湖森」の再整備はwithコロナ時代の若者や子どものいる家族のレクリエーション拠点としての役割を果たすことが期待される。
- ・オートキャンプ場もコテージ、ログハウスも持っている長所を活かし、単なる建物の整備だけでなく、“何が楽しめるのか”をターゲット別に調査し、多様な楽しみを得られるようにしてほしい。
- ・キャンプがブームである一方で、コテージなどで“キャンプ気分”を味わいたい人も増えている。コテージの内装や全体的な風景(グランピングといわれるような)にも限られた予算内で工夫し、集客を図っていただきたい。
- ・基本目標2-Uについてはしっかりと企画立案、検証を進めてほしい。
- ・他の項目(ガラス、薬業)に合わせて、「天湖森」についても富山市全体としての地域資源として位置づける書き方にした方がよい。富山市一体として地域資源を活用したまちづくりを進めることが読み取れる書きぶりが望ましい。
- ・アフターコロナの状況下で、アウトドア志向、自然志向が高まっている。天湖森の活用には期待したい。
- ・コテージ利用者の基準値9,483人に対し目標値10,500人は、比較的低い目標設定に感じた。再整備の投資額、1,000人増による収益改善等、天湖森の再整備事業に関する投資効果の説明が必要に感じた(定性的な効果も含め)。

【スポーツ実施率の向上と歩くスポーツの推進について】

- ・「とほ活アプリ」の更なる普及など一層の取組強化を図るべき。
- ・市民のスポーツ実施率の向上と歩くスポーツの推進について、「とほ活アプリ」とカターレ富山・富山グラウジーズなどプロスポーツチーム、公共交通、中心商店街との連携を期待する。

【その他】

- ・コロナ禍で見本市等の開催が中止になっているとはいえ、「ベンチャー企業等新商品市場創出促進助成金」の交付件数が少ないのは富山県庁の起業促進の方針の中で残念。一層の周知に努められたい。
- ・一方中心市街地における大型商業施設等の誘致はこれ以上進めるのではなく、既存の商店や地域の飲食・サービス業の活性化や新規出店、空き家の活用など地域事業者を対象とした具体的施策を実施すべき。
- ・藤井市長の提唱するスマートシティ実現に関する具体的な施策と数値目標をMaaSの活用や公共交通の利用促進、ローカル5Gの普及促進などに関連して盛り込んでいくべき。
- ・コロナ禍の今こそ市民による「マイクロツーリズム」と「産業観光」を推進していくべきではないかと考える。

- ・総合戦略改訂版のコンパクト版を作成して、市民はもちろんのこと、関係機関等にも認知、理解促進が図れる努力をして頂きたい。総合戦略を作成して終わりではなく、多くの市民や関係者の方と連携して事業を推進していく方が効果的である。
- ・基本目標3のウ. 総合的な生活サービスの提供について、現下、コロナ禍の中、人と人との接触を避けるとか、一定程度の距離をとるなど、人と人がふれあう機会が激減している。特に高齢者は出かけない、歩かない、しゃべらないことにより孤立化、孤独化が進み、フレイルの発症が危惧されており、健康面での悪影響も懸念され、外出機会の創出が大変重要と考える。外出機会の促進を進めるにあたって、具体的な事業である孫とおでかけ支援対象施設については、子供や高齢者にとって興味関心を引き起こす魅力ある取組が必要であると考え。美術、観光施設等に加え、例えば中心地区で商品購入時の割引サービスデーの設定や乗り物無料デーの設定など世代間を通して楽しく出かけるきっかけを作る取り組みを多方面に幅広く展開してもよいのではないか。そうすれば、令和6年度 KPI 目標値も基準値の現状維持ではなく、上回る値が期待されると思う。
- ・「シビックプライドを高める (3p)」は、どのような成果指標で示すか？具体的なエビデンス、データが必要。
- ・コロナ禍でリモートワーク環境が飛躍的に進み、地方で働く機運が高まっている今こそ、リモートワークに的を絞った富山移住を強く推進すべきと考える。

議事 2 総合戦略の取組状況について

ご意見

- ・コロナ禍の影響を付して取組状況を説明している（資料2-2）がとてもわかりやすかった。予期せぬ状況に総合戦略の取組が停滞したり、効果が得にくい内容があることが理解できる。
- ・コロナ禍だからこそ方法を考えれば、より推進するものもあると思う。細分化された事業だけを評価するのではなく、大きな目標に立ち返り、事業内容を再検討してみてもよいのではないだろうか。
- ・少子化の最大の原因は、10代、20代の女性の県外流出（県少子化対策委員会での委員の報告から）であるとすれば、コロナ禍で県内にとどまりがちである状況をとらえて魅力を発信することも可能ではと考える。また、地域資源を活用したコンテンツづくりや、シティプロモーションは、インターネットの利用でより効果があがると考える。
- ・歳入減や実施すべき事業の増力等に対応していくために、引き続きエビデンスに基づく評価と取組を目指して頂くとともに、PDCAサイクルに沿って効率的効果的に事業推進を図って頂きたい。
- ・引き続き、コロナ禍の影響が観光や賑わい関係の指標に大きく表れていると思うが、人口動態や雇用状況についてコロナ後の変容を予測しつつ、戦略の再構築を図られたい。
- ・公共交通機関や施設の利用が一時的に低下するのはやむを得ない。地方分散の兆しなど長期的・恒久的に社会が変化した部分もあるので、「今後の対応策」には（嵐が過ぎ去るのを待つだけではなく）そうした変化に対する積極的な対応も盛り込んで良いのでは。
- ・(p9) 無人トラクターが導入できる経営体は限定的。幅広いスマート農業技術に対して目標を設定したほうが実態を把握しやすい上、スマート化の推進にもプラスではないか。
- ・市の取組み中で市として一番の課題や困っていることとして認識していることは何か。優先順位の明確化のため。
- ・コロナの影響を受けているものも多いようだが、対応、対策をして継続していけるよう頑張ってもらいたい。
- ・オープンデータの活用促進について、富山大学のデータサイエンス大学院との連携を期待する。富山市の保有するデータにて、富山大学の学生にて分析。富山市の課題解決を一緒に行う。学生に地元の認識を深める取組に繋げて欲しい。学生が本気で分析し、市長に提案するような場の設定もあり得るのではないか。

議事3 国の地方創生関係交付金を活用した取組について

ご意見

【全体】

- ・各事業の内容はとても良いと思うが、もっと1つの価値・テーマを決めて、関連づけながら進めていくことができないかを感じる。(ex. エゴマ⇒薬膳とか。ガラス⇒光のまちとか。コンパクトシティの良さも、大型店ではなく、小さなテーマを持った店やまちがあって個性を発揮するとか。)
- ・とても良い取組をしていると感じる。市総の活用や駅北など可能性はたくさんあるのだから活用や発信の工夫で効果があがるのではないか。
- ・コロナ禍でやむを得ない面もあるが、引き続き公共交通の活用による地域住民の移動促進による健康増進に努めるべき。また富山県庁の方針である「ウェルビーイング、幸せ人口1000万人」とも連携して、関係人口の創出や、SDGsの推進、スポーツ施設と関連施策の充実やスマートシティの基盤整備に積極的に取り組まれるべきであると考えます。
- ・国の交付金も活用していることを知っていただくために、このような交付金の活用が富山市にどのような効果の発現につながっているか、分かりやすく説明したパンフレット(ホームページ)等の作成を望む。もし、取り組んでおられることであれば、人手方法等はどうなっているか。
- ・総合戦略の全体像に即した意欲的な取組がなされていると思う。

【5. エゴマのグローバルブランド化推進事業】

- ・導入当初の背景は分からないが、「エゴマ」事業について、富山市として取り組む意義、実際の効果の検証が必要と感じた。

【10. 富山で暮らそう！移住支援事業】

- ・計画値310と実績値11の大幅な乖離理由。乖離理由に課題解決のヒントがある。

【12. オープンイノベーションを見据えた関係人口・交流人口創出事業】

- ・KPIで「とやまシティラボで共創した地域課題解決案の数」の分野別や検討粒度の分類。共創することは大事だが、検討分野やその粒度の明確化、さらにそれらが課題解決につながっているかの明確化が必要。

【14. 開疎な脱炭素コミュニティ構築プロジェクト】

- ・「開疎なコミュニティ」とコンパクトシティが矛盾するものと受け止められないか懸念する。県の事業だから入っているということは理解するが、コロナ後を見据えると開疎化は無視できない潮流の一つと思われる。コンパクトと開疎をうまく融合した富山モデルを積極的に示せないか。

議事4 企業版ふるさと納税の活用について

ご意見

- ・とても良い取組だと思う。普及のためのPRに期待する。
- ・引き続き企業が寄附をしやすい事業構築を心がけほしい。
- ・企業版ふるさと納税の「人材派遣型」での実績を知りたい。寄付だけでなく、企業から特定テーマの人材を派遣する制度が新設されており、有望と思われるため。
- ・富山市においてもスポーツ施設の整備等も予定される中、広島市（サンフレッチェ広島の新スタジアム）等のふるさと納税も資金調達の一部として活用する取組は参考にし、税制負担の軽減に努めながら、シビックプライド醸成・駅周辺の魅力ある街づくりの推進を図って欲しい。

その他

ご意見

- ・各活動（事業）が係数化され、進捗管理がなされているのは素晴らしい。ただ各活動が市民希望出生率1.88%実現とどのように関連づけがなされているのかが見えにくい。まち・ひと・しごと総合戦略と出生率アップのわかりやすいストーリーがあれば良い。
- ・「おでかけ定期券」等を利用して市街地に出かけ、買い物や体育施設・文化施設の利用等が出来ることは大変嬉しいこと。それ以外に市街地に世代間交流の場所、機会が多くあれば良い。自分自身が社会を構成する一員として、役立っている実感することができ、生き甲斐となるため。